Inter-University Research Institute Corporation National Institutes for the Humanities
Research Institute for Humanity and Nature

世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域における

「聞き書き」を活用した次世代育成に関する研究

Narrative recording of Lifehistory in GIAHS Takachihogo - Shiibayama, Miyazaki, Japan.
-For the development of the next generation-

聞き書きとは？
Process of Narrative recording

聞き書きとは、若者が聞き手となり、地域の農林業や歴史、文化を受け継いでこられた方々（語り手）にインタビューをし、それを文章にまとめる取り組みです。NPO 法人共存の森ネットワークが手法を確立し、その実践と普及に努めています。「聞き書き」事業は、日本の世界農業遺産サイトでは、石川県能登地域、大分県国東半島宇佐地域においてすでに実施されています。

若者には、地域の産業や歴史文化を学び知り、それを受け継いでこられた方々のライフヒストリーに触れることで自身の将来を考えるきっかけとし、地域を離れても、自分の生まれ育った地域を誇りや自慢に思う心を養ってほしいと考えています。

また、「世界農業遺産」をキーワードに、これまでの地域に内在する知識や技術を形式知化することもこの事業の目的の一つです。さらに、熟年層やシニア層にとっても、若年層の興味関心や問題意識に触れることで、地域や農林業に対する新たな視点の発見につなげていただきたいと思っています。

❶ 質問づくり
Prepare suitable questions to interview

❷ 聞き取り
Interview

❸ 文章化
Write out

ねらい
AIMS of Narrative recording

❶地域の知識や技術を記録する
Recording the local art and local knowledge

世界農業遺産に選ばれた高千穂郷・椎葉山地域に継承されてきたさまざまな知識や技術を記録する。日々の暮らしの中で、実際にそれらの技術や知識を継承している話し手との会話を通じた記録は、ただ文章としての記録の域を超えて、胸を打つ内容になりえる。それは、その技術や知識がその人の人生とは切りはなせないものとして捉える「聞き書き」ならではの利点である。

❷地域産業・文化・自身に対する誇りを生みだす
Create a sense of pride

自身が長年続けてきた農業や祭礼など、地域の暮らしのさまざまな「当たり前」の行い。「聞き書き」の話し手となる方々には、若者に対して自身のライフヒストリーを話すなかで、その「当たり前」の行いについて新しい視点をもってもらいたい。

実は「当たり前」ではなく、それはすばらしい価値のあるものであることを発見するきっかけにしてほしい。

❸次世代育成 ー地域産業の担い手づくりー
Support the development of the next generation

各町村は、人口減少に歯止めをかけ、農業、文化の継承を目的として、他地域からの移住促進事業等を進めている。これらに加え地域の若者には、「聞き書き」を通じて、GIAHS 地域をの産業や文化を継承し担ってきた人々のライフヒストリーを目の当たりにすることで、自身の将来を考えるきっかけにしてほしい。

話し手の方々
Tellers

展望
Vision

世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域における次世代育成の取り組みとして、宮崎県では平成 30 年度、聞き書きプログラムを実施します。

聞き書きプログラムは、特別な機器や場所が必要となるような難しい取り組みではありません。話をしてくださる人と、聞く人がいれば成立します。もし聞き書きプログラムに特別な側面があるとすれば、それは、そこで語られた内容を、他の誰かに伝えるための“かたちにする”という点です。

話し手は自分の経験や知見などをライフヒストリーとして若者に伝え、若者はそれを受け取って文章というかたちにします。若者はインタビューの録音を何度も聞き、それを文字にしていくことで、話し手が語った内容をより深く理解し、あるいは自分自身の人生についても考えるきっかけになるかもしれません。話し手は、自分の話したライフヒストリーが文章となって返ってきます。聞き手である若者が自分の話をどう受け取ったのかを知るときです。地域で働き暮らしてきた方にお話を聞くこと自体が、若者にとっては貴重な交流な時間なのですが、交流したその時間を目に見えるかたちに変える作業、そしてかたちになったものを両者が共有することこそこのプログラムでは重要だと考えています。交流の先にある、交感の機会となりえるものです。

実は、この研究事業の中で、平成 30 年 3 月 2 日に聞き書きの実験実施を行いました。実際に若者が質問を作って、地域の方にインタビューをしてみる実験です。この実験に参加してくださった高千穂高校生の甲斐華穂さんは、今年 4 月に高千穂町役場に就職されました。元々公務員志望だったの？ときくと、そうではなかったそうです。ただ、あることがきっかけとなって高千穂町役場で働きたいという思いを持ったといいます。

彼女が高校 1 年生の時の 12 月、高千穂町を含む 5 町村は世界農業遺産に認定されました。その前後に行われていた役場での「世界農業遺産」に関するワークショップに、彼女は見学に行きました。まったく行くつもりもなく、ただ偶然、学校で先生から「行ってみらんか？」と声をかけられて、彼女は一人で行きました。そして、そこで見た役場担当者の方々の真剣さに圧倒された彼女は、「私もここで働きたい」と強く思ったといいます。続けて華穂さんは言います。「もしあのワークショップに友達と行っていたら、あんなに圧倒されなかった」。一人だったから、華穂さんも緊張しながら、でも真剣にワークショップを見学したのだということです。真剣な者同士の交流が生まれた後、それから華穂さんは、高校で世界農業遺産の学習に取り組み、役場の担当者の方々とのやり取りを通じて、自身も役場で働きたい思いを明確にしていきました。これが交感の時間になったのかもしれません。この聞き書きプログラムが多くの若者にとって、華穂さんが経験したあのワークショップ、そして世界農業遺産の学習や取り組みの時間と同じような機会になればと思うのです。

また、聞き手は高校生である必要はありません。例えばこの地域の中学生や、この地域を離れて暮らす高校生にもぜひチャレンジしてほしいと思っています。文章化が難しければ、文章にこだわる必要はありません。何らかのかたちにすることが大事なので、たとえばポスターや、作文、歌などでもいいと思います。

一方、話し手についても、地域のいわゆる壮年、老年の方々に加えて、I ターン者、U ターン者の方々で、この地域で生きていくと決めて暮らしておられる若い方々にも参加していただきたいと考えています。このように、高千穂郷・椎葉山地域独自の聞き書きプログラムの目的である次世代育成のために、この地域独自の方法が作り出されていくことが大事です。1 年や 2 年で成果が見えなくても、5 年後、10 年後に表れる成果がこれほど楽しみな取り組みもないと思います。

この地域に生きる人同士が、真剣に聞き、語り、それをかたちにする中で両者の考えや生き方に新しい何かが生まれてくることを期待しています。

この研究・事業は、平成 29 年度、宮崎県からの受託研究の一環として、総合地球環境学研究所が行ったものです。
ご協力いただきました地域のみなさま、関係者のみなさまに心から感謝いたします。ありがとうございました。

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
総合地球環境学研究所